

コタエハビーツナハズガナイ DJ MITSU THE BEATS feat.KOHEI JAPAN

90年代ヒップホップをテーマに掲げるC.r.e.a.m.

Team Recordsから今年（2022年）6月に発表された

DJ MITSU THE BEATSのShing2の「コタエハビーツナハズガナイ」に続くシングル『Memento』に続き、同レーベルの第2弾シングルとしてリリースされるのが、KOHEI JAPANをフィーチャした「コタエハビーツナハズガナイ」だ。

90年代半ばにデビューした2MCIDJのヒップホップグループ、MELLOW YELLOWの一員として活動しながら、ソロ名義でも4枚のオリジナルアルバムと1枚のベストアルバムを発表してきたKOHEI JAPAN。他にもDJ KIROとのユニットであるFunky Lemonadeでの活動や、ソロでもK.J.という別名義でのプロジェクトを立ち上げたり、さらにインディーからメジャーまで持ち合わせたアーティストの楽曲にゲスト参加するなど、約30年間のアーティスト活動の中で実に多彩な活動を繰り返している。ちなみにヒップホップファンの間では、RHYMESTERのMummy-Dの実弟としても知られる存在だ。そんなKOHEI JAPANとDJ MITSU THE BEATSの関係性からまずは話を始めよう。

両者が最初に出会ったのは、KOHEI JAPANが1stアルバム『The Adventures of KOHEI JAPAN』をリリースした2000年頃のことだ。秋田に行われたKOHEI JAPANのライブの前座を務めたのが、当時まだデビュー前のGAGLEであった。この時のエピソードは、まだKOHEI JAPANをフィーチャしたGAGLEの曲「Constellation」（アルバム『BIG BANG THEORY』収録）のリリックでも語られているのだが、その時のことを二人は今でもはっきり覚えているという。

KOHEI JAPAN：最初にジャックリしたのがHUNGERのライブで。それまで俺らが作り上げてきた日本語ラップとも違って、すごくオリジナリティが溢れていた。そのライブのトラックがやたらジャシーで、完成度も高くて。その時にももらったGAGLEのデモテープは今でも持っていて、俺の宝物でもあるんだけど、ジャズのループでドラムしっかりしているみたいな感じのトラックで、今のガグルのまさに原型。その時からブレてない感じがすごく伝わっている。

DJ MITSU THE BEATS：HUNGERの愛態性にもすごく反応して、「なんか、お前が変なやつだなー」みたいな感じで話しかけてもらって。もともと、RHYMESTERとかRIP SLYMEと同じようにMELLOW YELLOWも格好良くなっと思って聞っていて。KINちゃんの声のイントラストとかフランスが良くなっと思って、普通にただのファンでしたね。

二人の初共演となったのが2002年にリリースされたコンピレーションアルバム『Change The Game』の収録曲「もじも息子ができたら…」だ。この『Change The Game』は当時、社会問題となっていた児童虐待を抑止するために企画されたチャリティーアルバムで、曲の依頼を受けたKOHEI JAPANがDJ MITSU THE BEATSに声をかけてプロデューサーとして参加しているという。

なったという。

KOHEI JAPAN：その前の年（2001年）にGAGLEがNext Levelからデビューして、レベルメイトになったタイミングでもあったので、「頼んでみちうかなー」みたいな感じで。スケジュール的にも急な話だったんだけど、急ぎで、ミシ（DJ MITSU THE BEATS）に仙台から東京のスタジオまで来てもらって。それで出来上がったのが「もじも息子ができたら…」なんだけど、その後、ライブでも毎回やる曲になったり、俺自身の曲でもすごく重要な位置を占めている曲になった。

DJ MITSU THE BEATS：当時、自分の代名詞みたいな感じの曲になって、本当に感謝しています。楽曲としてメッセージ性がすごく強くて、意味がある曲で。あと、代表曲になるような曲って単に時間をかければいいわけじゃないって、GAGLEの「屍を越えて」とかもそうですけど、その時にバツと生まれたものがすごく大事なんだなとも思いました。

「もじも息子ができたら…」はその後、2007年にリリースされたKOHEI JAPANのソロアルバム『Family』にボーナストラックとして再収録され、さらに翌年にリリースされた『Family E.P.』のためにDJ MITSU THE BEATS自身の2008年バージョンが制作され、こちらのバージョンは配信などで聞くことが可能だ。話を少し戻して、2002年にリリースされたオリジナルの「もじも息子ができたなら…」を経て、前述したようにGAGLEのメジャーデビューアルバムとなった『BIG BANG THEORY』（2005年リリース）にKOHEI JAPANがゲスト参加した「Constellation」という曲が生まれる。

DJ MITSU THE BEATS：GAGLEのメンバー全員がコーヘイさんのことが大好きで。尊敬する先輩だけどすごく喋りやすいし、僕らに対する対応とか、まるで兄貴みたいな感じだった。メジャーでアルバムを作るってなった時にすぐに名前が挙がって、是非やりたいっていう話になって。

「Constellation」は、GAGLEとKOHEI JAPANの関係はやはりタイトになり、ステージで共演する機会もさらに増えていく。ただ、意外なことではあるが、実際にKOHEI JAPANとDJ MITSU THE BEATSの共演曲は「もじも息子ができたら…」とGAGLEの「Constellation」のみ。リリース作品以外ではDJ MITSU THE BEATSがトラックを提供した、KOHEI JAPANがナレーションとラップを担当した、2019年公開の千葉県白子町のイメージムービー『SHIRAKO Life Style』がある程度だ。つまり、今回のシングル「コタエハビーツナハズガナイ」は、2008年バージョンの「もじも息子ができたら…」を入れたというも、実に14年ぶりのリリース作品となる。

今回、C.r.e.a.m. Team Recordsの第2弾シングルにKOHEI JAPANが参加するという経緯として、まずはFunky Lemonadeの大ファンであるレーベルオー

ナーの強い意向があり、DJ MITSU THE BEATS自身もその意見に乗ってオファーしたという流れがある。当然、KOHEI JAPANはオファーを快諾し、KOHEI JAPANがラップするのをイメージして制作されたトラックがKOHEI JAPANへと送られた。

KOHEI JAPAN：ドラムがきっちりとかオンタイスされてない、ミシ独特のグルーヴ感が最初はちょっと掴めなくて。「おじさんには難しいビート持ってきたな〜」って（笑）。けど、1回ラップを乗せてみると、すごく気持ち良くてラップ出来るというか。それは音の鳴りもそうだし、ビートの配置も絶妙と言っか。とにかく上手いって思った。

「コタエハビーツナハズガナイ」を最初に聞いた時、前半部分のドラムが大胆に抜かれている構成に驚かされたが、これは実はKOHEI JAPANのディレクションによるものであったという。

DJ MITSU THE BEATS：あれは完全にコーヘイさんのアイデアですね。そういうのって他のラッパーではあんまりないんですけど、コーヘイさんはアドバイスも的確にくれて。そういう意味で、ちゃんとコラボして作ったっていう感じがあります。

KOHEI JAPAN：最初に送られてきたのがドラムからビートが入った基本のループだけだったので、すごくシンプルに感じて。俺のラップもシンプルだから、結構大胆に展開したほうがいいかなーと思って。ミツにドラムなしのループを送ってもらって、自分のパソコンで切り貼りしてミシに戻したら、それを尊重してくれて。

ドラムの鳴りやシンブルな上ネタのサンプリングに、90年代ヒップホップのテイストも強く感じさせる今回のトラック。なかでも最も重要なポイントとなっているのが、エモーションに響くギターの音色だろう。

DJ MITSU THE BEATS：コーヘイさんに合うって考えるとファンキーなトラックかこっち（エモーション）方面のがずいぶんあって。それでギターのサンプルを使ってトラックを作って。聞いてもらえば分かると思うんですけど、実は今回のトラックは少しだけ「もじも息子ができたら…」へのオマージュも入っています。

リリックの中に母親の話が出てきた部分にも、個人的には「もじも息子ができたら…」との繋がりを感じたのだが、フックにもある「唯一無二、ワンアンドオンリー」というヒップホップ的にも普遍的なテーマは、実は今回のプロジェクト以前から存在していたものであったという。

KOHEI JAPAN：もじもと自分のソロアルバム用に作っていたデモ曲があって。一時期いろいろ考え込んで結構スランプだったことがあって。その時に「まあ俺は俺だしって思えるようになって、スランプを脱出できて。

そいつはテーマの曲って俺はあまりなかったから、「みんなもそうだな」みたいな感じで着地させた曲にしてデモを録って。ただ、デモ曲のトラックがあまりにも大ネタでリリース出来るものではなかったの、宙ぶらりんな状態で。それを再構築して細かい部分を調整しながら、ミシのトラックに乗っけたのが今回の曲で。

DJ MITSU THE BEATS：最初に聞いた時に、正直、すごく嬉しかったですね。すごく良いテーマで、全てが期待以上っていうか。ラップの仕方もあるし、オリジナルのフロウを持って、歌詞の書き方もオリジナル。他の誰にも真似できない、コーヘイさんならではの絶対的なオリジナリティの高さが、本当にすごいなと思いました。

2020年にリリースされたオリジナルの「もじも息子ができたら…」からちょうど6年を経て完成した、今回の「コタエハビーツナハズガナイ」。二人の絶対的な相性の良さは今回も健在であるし、お互いにとっての新たなクラシックとなる可能性を秘めた曲とも言えるだろう。最後は今回のコラボレーションをやってみての改めての感想をKOHEI JAPANに聞いてみた。

KOHEI JAPAN：ミシのビートは装飾もあまりなくて無駄がないからこそ、ラップの力を試される。それにデモの段階で細かくミックスされていて、ラップをしたくなる仕掛けがあるから、ラッパーとしては乗せられる。あとは今回のギターもそうだけど、ネタのコード進行みたいなところで掴まれるものがあるって、感情を引き出してくれるなって。本当に今回、ひさびさにやれて良かったです。

ちなみに現在、KOHEI JAPANは次のソロアルバムに向けた制作を数年にわたって続けており、すでにデモ曲もかなり溜まっているというところで、『大人チャレンジ』（2016年リリース）以来の新作を楽しみに待ちたい。また、今回のインタビューの中でDJ MITSU THE BEATSは「コーヘイさんとならばEPでもアルバムを作るぐらいの気持ちがある」とも語っており、いつか二人のコラボレーションによる作品が作られることも密かに期待したい。

文 大前至（音楽ライター）

